

北斗市ワインを核とした 地域活性化ビジョン (骨子)

柱① 北斗産ワインのブランド化

- 施策 A 市民意識の醸成
- 施策 B 全道全国への情報発信
- 施策 C 生産体制の確立

柱② ワインを通じた交流人口の拡大

- 施策 A 観光振興
- 施策 B イベント開催

柱③ 地域経済への波及効果促進

- 施策 A ワイン消費の促進
- 施策 B 関連商品の開発
- 施策 C ふるさと納税への活用

北斗市ワインを核とした地域活性化ビジョン(骨子)

柱① 北斗産ワインのブランド化

施策A 市民意識の醸成

(1) 「広報ほくと」を通じた市民周知

内容 「広報ほくと」にワインに関する特集記事を掲載。

効果 ワイン事業者の取組やワイナリー運営など北斗産ワインの魅力を広く市民に周知。

(2) 市民向けワイン勉強会開催

内容 醸造用ぶどうやワインに関する基礎講座の実施（試飲あり）。

効果 ワインに興味を持ってもらい、理解を深める機会を市民に提供。

(3) 市のほ場で体験型ぶどうの栽培

内容 市所有のほ場で醸造用ぶどうを栽培し、市民の収穫体験を実施。

効果 醸造用ぶどう栽培体験を通し、地域活性化に向けた市民参加を促進。

施策B 全道全国への情報発信

(1) 市のHPにワインの特設ページ開設

内容 北斗産ワインに関する情報を発信するHPの開設。

効果 市内外に向けて、北斗産ワインの魅力や可能性をPR。

(2) PR素材の製作や広告掲載

内容 北斗産ワインの魅力をPRするチラシやリーフレットの製作、広告等の掲載。

効果 北斗産ワインの魅力を広く訴求。

施策C 生産体制の確立

(1) 市内農産物の活用

内容 大野農業高校のぶどうやりんご等を使用したワインの制作。

効果 地元の学校との連携、生徒の生産物に対する意識の向上が図られる。

(2) ぶどう生産ほ場の拡大

内容 醸造用ぶどう栽培に適した遊休農地等の活用による産地形成の拡大。

効果 ぶどう生産量の増加、醸造用ぶどうの栽培適地として知名度向上。

(3) 人材育成

内容 大野農業高校やワインアカデミーとの連携による研修開催。

効果 次代を担う生産者の発掘と育成。

(4) 市役所内における支援体制の充実

内容 各部課が連携し、庁内横断的な支援や職員ボランティアによる協力。

効果 市職員の取組みが市民にも拡がることに期待。

北斗市ワインを核とした地域活性化ビジョン(骨子)

柱②

ワインを通じた交流人口の拡大

施策 A 観光振興

(1) 体験型観光商品の開発・販売

内容 ほ場を見学するサイクリングツアーなど体験型観光商品の開発、販売。

効果 ぶどう畑を間近に見学するなど地域特有の観光資源として確立。

(2) 農泊施設を受け皿とした来訪者へのサービス充実

内容 農泊施設利用者を対象に、各事業者が連携した「こと消費」サービスを提供。

効果 北斗産ワインをきっかけに、北斗ファンを獲得。

(3) トラピスト修道院や石別地区との連携・協働

内容 ワインをきっかけとして地域の歴史や文化とふれあう。

効果 地域の賑わい創出が期待できる。

(4) ワイン用ぶどうオーナー制度の導入

内容 定植したワイン用ブドウ苗木のオーナー（有償）を募集し、ぶどう栽培の体験旅行やワインの贈呈、地元料理の提供等のサービスが受けられる制度の構築。

効果 北斗産ワインのファン獲得と本市への来訪機会を創出。

施策 B イベント開催

(1) 道南ワインガーデンの継続・拡充

内容 道南にゆかりのあるワインと食を提供するイベントの開催。

効果 生産者と身近に接することにより、さらなるファンの獲得を加速。

(2) 文月、向野地区でのワイン祭り

内容 生産者主催による北斗産ワインを楽しむ場を提供。

効果 ほ場やぶどうを見ながらイベントを開催することで、生産者の想いにつれ、より深いファンの獲得が期待できる。

北斗市ワインを核とした地域活性化ビジョン(骨子)

柱③ 地域経済への波及効果促進

施策 A ワイン消費の促進

(1) 市内で販売や提供が可能な北斗産ワイン数量の確保

内容 市内の販売店や飲食店に北斗産ワインを数多く出荷してもらう。

効果 市内におけるワイン消費増加による地域経済の活性化。

(2) ワイン関係事業者を対象とした勉強会の開催

内容 販売店や飲食店などを対象にワインの適切な管理を学ぶ機会を提供。

効果 ワイン生産者が安心して地元に出荷できる体制を確立。

(3) 市独自の認証店制度の導入

内容 北斗産ワインを適切に管理し、販売、提供できる店舗を認証店として登録する。

効果 北斗産ワインの取扱店として新たな付加価値の創出による地域経済の活性化を図る。

施策 B 関連商品の開発

(1) ワインを使用した新商品開発

内容 北斗産ワインを使用したスイーツなどの食品や土産品の開発。

効果 新たな特産品の誕生による経済効果が期待できる。

(2) ワインに合う食品の開発

内容 ワインと一緒に楽しめる食品の開発、提供。

効果 乳製品や水産物など新たな特産品の創出による地域経済の活性化。

(3) 残渣の活用による家畜のブランド化

内容 ワインを醸造する際に発生する搾りかす等を家畜のえさとして利用。

効果 ぶどう農家と畜産農家の連携が図られ、残渣と堆肥の循環利用が可能となる。

施策 C ふるさと納税への活用

(1) 返礼品としての活用

内容 北斗産ワイン等のふるさと納税返礼品への登録。

効果 ふるさと納税の増加による財源確保の充実。

(2) ワイン用ぶどうオーナー制度の返礼品登録

内容 定植したワイン用ブドウ苗木のオーナー（有償）を募集し、ぶどう栽培の体験旅行やワインの贈呈、地元料理の提供等のサービスが受けられる制度を構築し返礼品とする。

効果 ふるさと納税の増加による財源確保の充実。